

OCTAVER

OC-01

¥13,000

原音に1オクターヴ下の音をプラス。ユニゾン効果やヘヴィな音の厚みをつくるエフェクター。音域と音量に対する追従性が飛躍的に向上。ベースのローポジションからギターの高いポジションまで、クリアなローオクターヴ音が得られます。ローオクターヴ音の音量を決めるEFFECT LEVEL、原音の音量を決めるDIRECT LEVEL、原音の極性を揃え、ローオクターヴ音の音質を安定させるPOLARITY SWの3ファンクションタイプ。シングルサイズのPSEユニットです。

FUNCTIONS

EFFECT LEVEL: ローオクターヴ音のボリューム。10で最大音量になります。
DIRECT LEVEL: 原音のボリュームです。0では原音は出ずローオクターヴ音のみ、10で原音が最大音量になります。
POLARITY SW: 楽器のピックアップの極性(位相)に合わせます。ローオクターヴ音の音質の良い側にセットします。
INDICATOR: エフェクトオン状態で点灯。大きく光量の多いLEDを使用しています。パワーインディケーターも兼ねており、バッテリーの電圧が作動レベル以下になると消えるしくみです。
EFFECT FOOT SW: エフェクト機能のオン/オフを切り換えるスイッチ。パワースイッチではありません。心地よいクリックを持つ、ローノイズメカスイッチを使用。オフ時の原音もクリアです。
INPUT: 信号の入口。ギター、ベース、キーボード、エフェクターなどのアウトプットと接続します。パワースイッチも兼ねており、プラグを差し込むことで同時に電源がONになるしくみです。
OUTPUT: ギターアンプ、ベースアンプ、ミキサー、エフェクターなどのインプットと接続します。音の出口です。



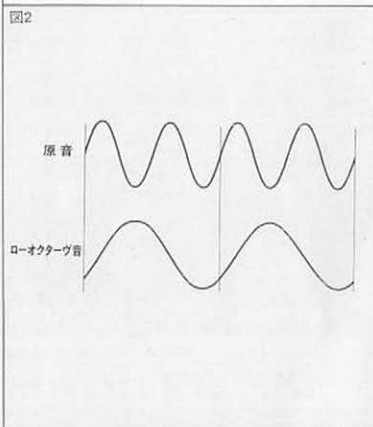
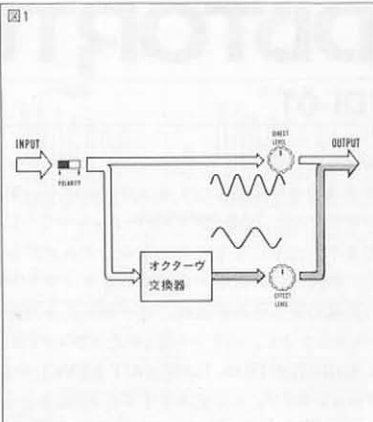
SPECIFICATIONS

入力インピーダンス: 1MΩ
 出力インピーダンス: 1kΩ
 最大入力レベル: -6dB @ 0dB=775mV, at 250Hz
 最大出力レベル: +5dB @ 0dB=775mV
 ノイズレベル: -95dB 入力換算 @ 0dB=775mV, 入力ショート, -6dB/oct LPF 12.47kHz
 周波数特性(エフェクトオフ): 20Hz~10kHz ±3dB
 動作周波数レンジ: 40Hz~1.5kHz, 入力-20dB @ 0dB=775mV

最小動作入力レベル: -45dB @ 0dB=775mV, at 250Hz
 ファンクション: EFFECT LEVEL, DIRECT LEVEL, POLARITY SW(A/B), EFFECT FOOT SW, EFFECT IND, INPUT, OUTPUT
 電源: 9V乾電池 S-006P(システムボードマウント時はボード側からDC供給)
 電池寿命: 連続使用約14時間, @ HI-TOPE
 寸法・重量: 70W×65H×125Dmm・420g(電池を含む)
 付属品: 9V乾電池

ELECTRONICS

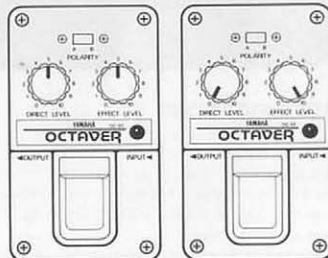
オクターヴァーはオクターヴ変換器を使って原音より1オクターヴ低いピッチの音をつくるエフェクター。大きく分けて3通りの使い方があります。1つは原音とローオクターヴ音のバランスを1:1程度にセットし、シングルノートによるフレーズをオクターヴ奏法に変えてしまう使い方。2つめは原音よりローオクターヴ音を小さめにセットし、音の厚みをかせぐ使い方。3つめは原音よりもローオクターヴ音をはるかに大きくセットし、演奏ピッチをまるまる1オクターヴ下げてしまう使い方です。図1はオクターヴァーOC-01のブロックダイアグラム。INPUT端子からはいつて来た原音は、原音の極性(位相: +の向き)を揃えるためのPOLARITY SWを通った後、2手に分けられ、オクターヴ変換器に送られます。オクターヴ変換器の動作は、原音の極性に大きく影響されます。ところが楽器からの信号音は、ピックアップ逆相スイッチ付きのギターなどもあるため極性がまちまち。そこで、このPOLARITY SWによってオクターヴ変換器が動作しやすいように極性を揃えてやるわけです。スイッチポジションはAがノーマル、Bが逆相です。さて、オクターヴ変換器はデバイダー(分周器)とも呼ばれ、原音の信号波形を2周期ごとに変化させる働きを持っています。つまり、原音の倍の周期(半分の周波数)を感じさせる波形に変えることで、ピッチの1オクターヴ低い音をつくるしくみ(図2)。OC-01のオクターヴ変換器は幅広い周波数レンジ(40Hz~1.5kHz)と、ワイドなダイナミックレンジ(-45dB~



6dB)を持った特殊回路。ベースにもギターの高いポジションにも充分動作するうえ、楽器のピックアップの出力の違いにもなんなく対応できる、優れたフォローイング性能が魅力です。

A PIECE OF ADVICE

オクターヴァーは、その原理からもわかるように、原音のピッチを確実にキャッチすることで1オクターヴ下のエフェクト音をつくり出します。したがって、原音はクリアな音色の単音でなければなりません。コード奏法を避けると同時に、複数のエフェクターを使用する場合にはなるべく楽器に近い方に接続するのが普通です。演奏する際にも一音一音を確実にピッキングすることで、エフェクト音の音の伸びのばらつきをなくしましょう。POLARITYスイッチをセットする場合には、ギターの低音部の開放弦を鳴らして、クリアなエフェクト音の得られる側を選ぶとよいでしょう。



オクターヴ奏法のセッティング。

ローオクターヴ音のみを出力するセッティング。